

那覇ブロック確認事項

沖縄県野球連盟那覇支部学童部

那覇ブロック審判部

I. 序

本確認事項は、沖縄県野球連盟那覇支部学童部那覇ブロック（以下、「那覇ブロック」という）が主催する大会において、公認野球規則や競技者必携に明記されていないプレイに対するジャッジ・解釈、運営上の支障を取り除くための処置、その他をまとめたものです。

那覇ブロック審判部長および副部長、那覇ブロックに所属する4地区（小禄・首里・那覇・真和志）の審判部長によって構成される那覇審判部長会によって策定され、那覇ブロック役員会の承認を経て成立されています。

なお、本確認事項の適用にあたっては他のブロック・支部で取り扱いが異なる場合がありますので、その点お含みおき願います。

II. 図説一覧

① 野球競技区画線（学童部）

- a 投手のマウンドの区画線は引かないものとする（必携 I 図説一覧 野球競技場区画線 改）
- b 区画線は 7.6cm 幅 ではなく 5cm 幅 とする（必携 I 図説一覧 野球競技場区画線 改）

III. 審判員・選手への注意事項

① 大会に参加するチーム・審判員の注意事項

- a 開会式について
 - 1. 開会式には、登録原簿に記載された全員が参加することとする。ただし、疾病、負傷、その他の理由で当日の試合に出場できない選手については、その限りではない（必携 II 審判員・選手への注意事項 全国大会に参加するチーム・審判員の注意事項 開会式について 改）
- b 大会審判員について
 - 1. 公式試合の審判員は、全日本軟式野球連盟に登録された審判員および各地区審判部長が推薦する審判員、各チーム監督から推薦された義務審判員が行う（必携 II 審判員・選手への注意事項 全国大会に参加するチーム・審判員の注意事項 大会審判員について 1 改）

② 競技運営に関する注意事項（学童部）

- a 監督会議で説明または決められた事項は、必ずチーム全員に徹底すること（必携 II 審判員・選手への注意事項 学童部、少年部、女子大会 §1 競技運営に関する注意事項 2 再周知）

- b 打順表（登録された選手全員を記入したもの）の提出は、1) その日の第 1 試合は開始予定時刻の 40 分前までに、2) 第 2 試合以降は前の試合の 2 回終了時に、大会本部に提出し、登録原簿と照合ののち、1) その日の第 1 試合は開始予定時刻の 30 分前に、2) 第 2 試合以降は前の試合の 3 回終了時に、監督と主将が球審立会いのもと攻守を決定する
ダブルヘッダーの場合は、開始予定時刻の 15 分前に大会本部に打順表を提出し、登録原簿と照合し、投手の球数制限を確認したのち、監督と主将が球審立会いのもと攻守を決定する
（必携 II 審判員・選手への注意事項 学童部、少年部、女子大会 §1 競技運営に関する注意事項 7 改）
 - c ベンチ内での電子機器類（スマートフォンやタブレット、ノート PC 等）の使用・持ち込みを禁止する。指示用のメガホンは、ベンチ内に限り 1 個の使用を認める（必携 II 審判員・選手への注意事項 学童部、少年部、女子大会 §1 競技運営に関する注意事項 15 改）
 - d 試合の挨拶は、試合前後の本塁整列の挨拶が全てである。チームの大会本部及び相手チームへの挨拶は不要である（応援団への挨拶は奨励）。試合に敬意を表し本部役員・記録員・控え審判員も起立し挨拶をする（必携 II 審判員・選手への注意事項 学童部、少年部、女子大会 §1 競技運営に関する注意事項 20 改）
 - e 試合前のウォーミングアップでグラウンドへ入ることができる大人は、選手と同様のユニフォームを着用した者（30 番、29 番、28 番。代理は認めない）に限られる（2023 年沖縄県野球連盟）
 - f 試合前に外野で円陣（声出し）を行うことを自粛する（円陣はベンチ前で行う）。また、相手チームへの威嚇・挑発と捉えられるパフォーマンスを禁止する（2024 年沖縄県野球連盟）
 - g 次の試合の記録員および義務審判員は、試合終了の 5 分後に大会本部へ集合する
- ③ 競技者のマナーに関する事項
- a 投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘うような大きな声を発しないこと（必携 II 審判員・選手への注意事項 競技者のマナーに関する事項 8 再周知）
- ④ 用具・装具に関する事項
- a ベンチ入りする大人および審判員は、試合中にサングラスを使用できるものとするが、使用するサングラスは、選手への威圧感を感じさせにくいものとし、高校野球の使用規定を参考とする（必携 II 審判員・選手への注意事項 用具・装具に関する事項 3 改 / 2025 年沖縄県野球連盟）

[高校野球の使用規定] メガネ枠はブラック、ネイビーまたはグレー（ホワイトは不可）とし、メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内とする。グラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内とする。なお、メーカー名はメガネ枠と同色とする。また、著しく反射するレンズのサングラスの使用は認めない

IV. アマチュア野球内規

- ① バッターズボックスルール（必携 IIIアマチュア野球内規 ②バッターズボックスルール 補足 / 2025 年沖縄県野球連盟）

- a 「打者が投球に対してバットを振った場合」とは、スイングの余勢で打席から出ざるを得ないと判断されるような場合のことである。出た場合は、速やかに戻る
- b 「打者がバントをするふりをした場合」とは、セーフティバント等でバントの余勢で打席から出ざるを得ないと判断されるような場合のことである。出た場合は、速やかに戻る

[原注] 本規定は積極的に反則行為を取りにいくものではなく、試合のスピードアップを目的としたものである。したがって、審判員による事前の“選手への促し”を前提とする

[注] 本規定のペナルティは、選手個人に対して与えられるものである

V. 質疑応答

- ① ファウル地域のボールデッドライン（VI ① b）を越えた送球に対する処置はエンタイトル・ワンベース（VI ① a）を適用する（必携 IV質疑応答 5.00 試合の進行 44 改）

- a 内野ゴロを打った打者走者をアウトにしようとした内野手が一塁に悪送球し、ボールデッドライン（ベンチを含む）を越えた場合は、打者走者が一塁に到達したとみなし、そこから1つの塁を与える。その他の走者も次の塁に到達したものとみなし、そこから1つの塁（投球当時の占有塁から2つの塁）を与える
- b 一塁（または三塁）走者に対する牽制球がボールデッドライン（ベンチを含む）を越えた場合は、投手板上からの送球も、投手板を外した場合も同じく、走者に1つの塁を与える
- c 前述のイ）ロ）を除く野手の送球がボールデッドライン（ベンチを含む）を越えた場合は、走者にボールデッドラインを越えた時の占有塁から1つの塁を与える

VI. 索引

- ① 用語の定義
- a エンタイトル・ワンベース：走者に2つの塁を与えることが、守備側に極めて不利になるという判断から適用されるルール
 - b ボールデッドライン：競技場を囲うスタンドまたは柵に替わる区画線

VII. 審判員のために

- ① 審判に関する取り決め事項
- a 球審は、1回表および1回裏開始前、投手へ新しいボール（＝未使用球）を手渡す。ただし、大会本部の意向により、未使用球ではなく、洗浄済みの使用球を採用しても構わない（必携 IV審判員のために 審判員に関する取り決め事項 二球場への到着から試合終了まで 7 改）

- b 控え審判員として、現行試合の担当審判員を除く審判員にその任を与えることとする。
控え審判員は、休憩中であっても現行試合を注視し、担当審判員と協議したり、誤りを訂正したりする（必携 IV審判員のために 審判員に関する取り決め事項 三控え審判員 改）

VIII. 附則

2025 年 5 月 本確認事項を施行する